

番号	対象年齢A/B	形式	ジャンル	タイトル	問題文	正解選択肢	解説
1	B)小学校高学年	○×	国語	ことわざ	「猿も木から落ちる」と同じ意味のことわざ、「○○の川流れ」。○○に入る言葉は「河童(カッパ)」である。○?×?	○	木登りが得意な猿が木から落ちることもあるように、その道に優れた人も時には失敗するということのたとえ。同じ意味として「河童の川流れ」「弘法にも筆の誤り」といったことわざがあります。
2	B)小学校高学年	○×	国語	ことわざ	2つのものを比べたことわざ「月とすっぽん」。良い方はすっぽんである。○?×?	×	月です。同じ丸いものでも差がある、両者がかけ離れていることを表すことわざです。
3	B)小学校高学年	○×	国語	ことわざ	「光陰矢のごとし」とは、月日が過ぎるのが早いことをいったものである。○?×?	○	光は太陽、陰は月を指し、「光陰」で月日や時間を表します。
4	B)小学校高学年	○×	国語	ことわざ	「蛙の子は蛙」とは、子どもが親にそっくりと褒めるときに使うことわざである。○?×?	×	子どもが親に似ているという意味もありますが、凡人の子どもは凡人にしかなれないもの、という意味もあるので、褒めるときには使わない方がいい言葉です。
5	B)小学校高学年	○×	国語	ことわざ	「爪に火をともし」とは、不可能なことに挑戦するという意味である。○?×?	×	ろうそくの代わりに爪に火をつけることです。ひどくケチなことや、貧しい生活をする事を指します。
6	B)小学校高学年	○×	国語	ことわざ	「へそで茶を沸かす」とは、おかしくて仕方がないという意味である。○?×?	○	おかしくて仕方がない、ばかばかしくてたまらない様子を指しています。「へそが茶を沸かす」とも言いません。
7	B)小学校高学年	○×	国語	ことわざ	ことわざ「灯台もと暗し」の「灯台」とは、港や岬に設置された灯台のことである。○?×?	×	この「灯台」とは昔の照明器具のこと。油皿をのせた台の部分は明るく灯しますがすぐ下は暗いことから、身近なことの方が気づきにくいことのたとえに使われることわざです。
8	B)小学校高学年	○×	国語	ことわざ	ことわざ「まごにも衣装」とは、子孫によい服を残せるように一生懸命働く、という意味のことわざである。○?×?	×	ここにある「まご」とは馬に人や荷物をのせて運ぶ職業「馬子」のことです。「馬子にも衣装」とは、どんな人でもちゃんとした衣装を着れば立派に見える、という意味のたとえです。
9	B)小学校高学年	○×	国語	ことわざ	ことわざ「青菜に塩」といいますが、これは青菜に塩をふりかけると色が鮮やかになることから、「元気になる」という意味である。○?×?	×	どんなに新鮮な野菜でも塩をかけると水分がなくなりしおれてしまうことから、元気だった人が急に元気を無くすという意味があります。
10	B)小学校高学年	○×	国語	ことわざ	同時に二つのものを手に入れようとして失敗してしまうことをいうことわざ「虻蜂取らず」。この虻も蜂も取れなかった生き物はカエルである。○?×?	×	取れなかった生き物はクモです。クモが自分の巣に引っかかった虻を取ろうとしていたときに蜂も巣に引っかかり、蜂に気を取られている隙に虻が逃げられ、後に蜂にも逃げられたことに由来します。